705
83

歐洲の日常生活

武林無想庵著

0000795000

0000795-000

705-83

欧洲の日常生活

武林無想庵・述

京都経済会

昭12

AAB

705
83

武林無想庵氏講演

歐洲の日常生活

京都經濟會

705
83

歐洲の日常生活

武林無想庵氏講演

（昭和十一年十二月十五日於京都經濟會例會）

今日はかう云ふ會でお話の出來ることを光榮の至りに存じます。なんのお話をしてよいのか分らんのでありますが、この間よそで向ふの日常生活と云つた樣な話をしたのですが、詰り貧乏な日本人が西洋でどう云ふ生活をして居つたかと云ふ樣なお話を致しましたのですが、[illegible]依頼で、どうも貧乏をするのは譯はありませんが、話をするとなると中々面倒なもので、殊に外國の貧乏生活などは女房などにも書き難いもので、實は私は今一つ書きかけて居るのですが、どうも貧乏は淋しくなくなつて了ひ易くて困りますが、兎に角さう云ふ貧乏人の西洋に於ける日常生活と言つた樣なことをお話して見たいと思ひます。

もう歸りましてからなかなかになりますが、一昨年の十二月十六日僕はマルセイユに居りました。此方では十一月十一日は別に祝ひませんが、ヨーロッパでは世界大戰の終つた日としてどこの國でもお祝をして大騒ぎを致します。その時マルセイユに參つたのですが、それまでは家内と子供と一緒に巴里に居つたのですが、一緒に貧乏をするのは大變だから別々にしようと云ふことになり、私一人日本に歸る積りでマルセイユまで參つた譯です。そこで日本に電報を打つて貰つたりしましたがどうも香しくない、まづい物ばかり食つて榮養不良になつたと見え體を悪く致しました。一體向ふで普通の生活をしようと思へば先づ月に一人前五百フランは要ります。五百フランと申しますと、日本の金にして、今度の政府で大分又變りましたが一時は圓が五フランまでなつて居りましたから約百圓と云ふ金になります。それで日本の百圓なら百圓と云ふ金が向ふでは百圓として使へない。例へば大使館の御役人など月給は少いので百五十圓や二百圓ではとても生活が出來ません。それでさう云ふ場合は大抵千圓位の特別手當を貰つて居りますが、我々はさう云ふ譯に行きませんから大變困ります。

兎に角何んとかなるだらうとマルセイユまで行つて、先づ領事さんに會つて色々相談して見ようと領事さんの家を搜しましたが一向分らない。巡査に尋ねて見ても一向分らない。こゝでマルセイユの話を少寸致しますが、日本の領事館のある所は極樂町（リュー・パラディ）と云ふ名前でありません。マルセイユは山ばかりで白い岩肌が出て平地は殆どありません。通りなども概して狹いですが、一番の大通りは上の山手から下の方迄貫いたやゝ大きい通りで、銀座とか四條と云つた樣な通りであります。して、カンヌビエールと言つて居る。そこには一流のカフェなども並んで居ります。その通りを下つて來ると海岸の方に參る譯ですが、マルセイユは世界で有數の開港場だけに殆ど一里位も波止場が續いて居つて、その間に澤山ドックが並んで居る。そこから町の方に堀割が入込んで居りますが、そこが昔のマルセイユの港で、古いマルセイユと言つて居ります。カンヌビエールの大通りはこゝへ下りて來て居りますが、こゝに來るまでの右手に商業會議所などがあります。この古いマルセイユ港には遊覽船が澤山並んで居りますが、これはデューマの小說のモントクリストで有名なイフと云ふ島に行く遊覽船です。それが文明國にも拘らず新式の船ばかりではなく、あらゆる種類の船が並んで居る。この古いマルセイユ港――ヴイウポールはサフオと云ふ小說にも出て參りますが、これは私は學生の時に譯して未だ去年も少し印稅を貰ひましたが、外交官の主人公がずつと年上のサフオと呼ばれた女と夫婦になるが、ペルーに行く運動をして居る中に女は置手紙を

して別れて了ふ。そこが今のヴイウボールです。マルセイユは岡で上野の岡位の岡が續いて居りますが、東の方には相當高い山――大文字山位の山があつて、その上にお寺が一軒建つて居る。それが有名なノートルダム・ド・ラ・ガルドのお寺で、これは山の上にありますから何處からもよく見える美しい寺です。これは昔船乘達の目當に造つたものだ相ですが、舊港の一方は山陰で暗く一方は朝日が差して非常に美しい。私は腹が空つたので何か食べようと思つて、マルセイユはブイヤベスと云ふ魚料理が名高い所ですが、それより日本人の料理屋が十年程前に來た時あつたことを思出し、それがこの山の下の方になつて居つたので、丁度横濱なら野毛山下と云ふ所ですが捜して見たがさつぱり分らない。人に聞いて見てもさう云ふ樣なものがあつた樣な氣もするがと云ふ樣な返事で、仕方なしに波止場の邊りを歩いて居ると地中海の近海を航海する船やローヌ河を遡る船が澤山著いて居る。そんな所を見て居るとアレキサンドリヤ邊りにも連れて行つてくれる樣な氣持がして歩いて居りますと鼻先に渡と書いてある。向側を見ると朝日の當つた大きい黑い建物が見える。後で市役所と云ふことが分つたのですが、その建物に旗が澤山立つて居るのが見える。私は渡舟に乘りましたが、新式の汽船が往來する中にその渡舟は一人前三十文取つて一人で漕いで行く。昔東京の隅田川の竹屋の渡と言つた有樣で、文明の中にさう云ふものが未だに殘つて居る。切符を買ふ譯でもなく船頭に三十文拂つてやる。中には釣錢を貰ふのが面倒だと五十文眞鍮の錢をやる者があると有難う〳〵と舟の中で大喜びをして居ると云ふ有樣です。向側に渡ると間口の狹いコーヒ店など澤山並んで居る。一體向ふのカフエーは間口が廣いですが、日本へ歸つて來ると非常に間口が狹い。所がマルセイユは恐しく間口の狹い店が並んで居る。丁度京極の樣な所で電車が通つて居ると云ふ譯ですが、向ふは崖の樣になつて居つてそこには汚い着物を著た連中が日なたぼつこをして居る。失業した譯でもあるまいが大勢の人間がぼんやりして居ります。一體向ふの人は體の爲めによい爲めかよく日なたぼつこをして居る樣です。

マルセイユは表通は立派ですが一寸裏街に入ると舊港その儘で、うす汚い。千二百何十年にか世界中に大變ペストが流行つたことがありますが、デカメロンにはえらい流行病で大勢の人間が死んで、生殘つた者が空氣のよい田園に避難して話合ふと云ふ筋になつて居りますが、マルセイユでもペストで非常な人間が死んで、人が全部死んで了つた所は建物を破壞して了つた相ですが、今その跡に記念の爲めにお寺が建つて居ります。ニコライ堂の何倍もあるお寺で内部は大變綺麗です。このヴューボールの一廓は旅行者達がよく行く所ですが繪描達も盛んに參ります。一體日本の繪描さん達はこのヴューボールを餘りお描きにならん樣ですが、西洋の繪描さんはよく内部を描いて居りますが面白い所です。

マルセイユにはイタリー人ばかり住んで居る所があります。丁度神戸の支那人町と云つた樣な所で、話して居る言葉も殆どイタリー語です。一體マルセイユの古い場所はフエニキヤ時代から續いて居ると云ふ面白い古い所ですが、言葉などもフランス語とは一種特別なマルセイユ語とでも言はれるものが用ひられ、私共にはよく解りません。パニオールと云ふ人の活動寫眞が日本にも來たことがありますが、あの中に出て來る言葉がこのマルセイユ語ですが、私共にはよく解らんので面白いとも思ひませんでした。兎に角さう云ふ古いもの〻殘つて居る所です。

私は腹が空つて飯を食べようと食ひはぐれて歩いて居りますと、一日一フランと書いてあるアパートが見付かつたので喜んで入つて見ると、それは昔のことで今は休んで居るなど言はれて仕方なく舊港の方を又歩いて居ると、間貸の札が方々に出て居る。間貸ならホテルに宿るより餘程安からうと狹い一メートルもない位の入口から中を覗くと、

眞暗で呼んでも誰も出て來ない。隣の窓から覗いて見ると中で飯を食つて居る。鰯か何かを盛んに食つて居る。鰯と云ふと日本では下等な魚になつて居りますが向ふではさうでない。地中海で捕れる鰯は日本のと少し違ふ樣で細くて、さうですネ一寸鮎を海に入れた樣な感じがしますが、それをオリーブ油で揚げて食べて居ります。飯を食はして貰ひたいと言ふと、宜しいお入りと言ふ。入るとまがひの大理石のテーブルの上で中には博打をやつて居る者もある。中折帽などかむつて居る者は一人もない。をかしい鳥打の樣なものをかむつて居る位で大抵はかむつて居らない。背廣など著た者は一人も居らず沖仲仕の樣なイタリー人が一ぱい居る。一人背廣を著た男が博打をやつて居りましたが、それは隣の床屋さんだと云ふことが後で分りましたが、飯を食べて部屋は幾らだと尋ねると一日六フラン、恐ろしく安い。一週間まづ五十フラン、部屋を見に行くと、四五階位ある建物の四階で大きい部屋ですがとても寒い。持主はカフエの主人で、差配人はイタリー人ですが日本人とよく似て居る。お前と私とは同じ人種だと言つて居りましたが、南イタリーの人間です。南イタリーの人間はイタリー人でも一寸質が違つてナポリタンと言つて、ヨーロッパでは一寸嫌がられる質の悪い人間ですが、その男は隨分世話をして呉れました。私は懐勘定をして一邊そこで飯を食つたきり、それから街に出て日本には餘りありませんが、ばかに安いアルコールランプを使ふ焜爐を初め土鍋を買ひました。これは後で捨てるのだから安い土鍋を買つたのですが、それから食物を捜しに市場に出ました。マルセイユは世界の代表的港ですが、町の眞中に網を干してあつたりする。鰯など並べてある。市役所の近くに市場がありますが、そこは魚ばかりの市場ですが、雲丹を澤山賣つて居る。下關邊でも雲丹は賣つて居つてうまい物ですが、この市場では斷髪のお嬢さん達まで盛んに雲丹を食べて居ります。どうもうらやましい所です。こゝで米とおかずを仕入れ歸つて飯を炊く。一日五フラン以上は使はないと云ふ計畫です。その代り毎日同じ物ばかり食べなければならん。パンなど買つたことはない。その爲めに榮養不良で病氣になりました。尤も病氣と言つても寢た譯ではありません。日本に歸らうと交渉したのですが、劍もほろろに斷られ、仕方なく居られるだけ居つて見ようと一週間に一度は領事館に行きましたが、それ以外は此方からも行かないし向ふからも參りません。私の居つたアパートにはフランス人は殆ど居らないで黑坊が多い。併し細君は大抵フランス人かイタリー人かです。亭主が大抵黑坊です。黑ン坊にはいろ〳〵種類がありますが、私には區別はよく付きませんが黑坊と白人との合ノ子が澤山居る。僕の顏を見てびつくりして逃げて行く奴があるが、僕の方が怖いと見えます。

マアそんな生活をして居る中に僕は二フラン一枚しかなくなつたのです。フランスの金はをかしいもので、一九二〇年頃までは紙ばかりであつた。十錢でも紙幣です。所がその他に電車とか商業會議所から出しますボンと書いてある通貨でありませんが、眞鍮の錢の樣なものが通用して居る。前に行きました時はありませんでしたが、二度目に行つた時は紙幣は汚くなり易いからでせう、代りにさう云ふものが通用して居りましたが、その二フランが一枚しかない。アパートの差配はびつくりして、お前はたつたそれだけしかないのか、それでは榮養不良になる筈だ。兎に角宅へ來いと云ふ所からそのイタリー人の所へ行きました。その男はナポリ生れで十年前につひ喧嘩相手を殺して牢に入れられ、出て來るとムツソリーニの政府となつて居り、そんな人間は國内に置けないと追放されたと云ふ人物、お神さんはフローレンス人だ相で、フローレンスと言へばダンテとかボッチエリーとかを聯想する所ですが、その細君顏は人形の樣な顏をして居りましたが體はゴム毬の樣に肥つて、ラフワーエルなども三舍を避ける位でせう。そのお神さんすつかり入れないと見え、體を半分臺所に入れて天婦羅など揚げ

て居る。尤も向ふの豪所は狹いことも狹いのですが――。どんな物を食べて居るかと申しますと、イタリー人はフランス人から比べると隨分まづい物を食べて居るのでして、五フラン程で肉を買つて來てそれを茹でゝスープを拵へ、それに野菜を少し入れる。それからチーズを鰹節の樣に削つて、それとパンを嚙るだけで、晩飯の時には少し肉を食べる位です。後は鰯の天婦羅を食ふ位で殆ど肉らしい物は食べません。フランス人になるとオードーヴルに鰯を使つて、肉は必ず食べる。それから後で必ず甘い物を食べます。その他にチーズや果物も食べるしコーヒは必ず飲みます。イタリー人は實に簡單なもので飯の後は栗の樣なものを嚙つて話をして居る。フランス人に比べると非常に粗食の樣ですがチーズには非常に榮養がある樣です。それで以てフランス人に比べ困苦窮乏に耐へられる相です。その爲かニース邊に參りましても、フランス人よりイタリー人が多く、フランスの新聞は三つしかないのにイタリーの新聞は五もあると云ふ譯で、南佛地方はイタリー人が勢力がある。それはイタリー人は裸一貫で三十年でも五十年でも頑張つて地盤を造り上げる。尤も知識階級と言へばフランス人で、イタリー人は勞働者が多く、喋ることなどとても下等です。さう云ふ中へフランス人の勞働者が一人入つて來ると實に上品です。フランス人は文化が高くなり過ぎておとなしくなり過ぎて居るのです。さう云ふ次第でそのイタリー人の宅に厄介になることになりましたが、そのイタリー人の商賣と云ふのはビンダーレーと言つてペンキ屋さんの樣な家内裝飾をする。壁紙を張つたり、戸を塗り替へたりする。お前に出來るかと言ふからそれ位は出來ると、無代で飯を食ふのは惡いと思つてやつて見ましたが、ナニ僕の方が大分上手です。私は日本人としては不器用ですがそれでもイタリーの商賣人位の事は出來ます。その男も感心して大丈夫飯が食へると申して居りましたが、體の具合が惡くどうしようかと思つて居る内に十二月三十一日になりました。十二月三十一日と云ふと日本では夜の十二時に百八の鐘が鳴りますが、それと同じく向ふでもノートルダムの鐘が鳴ります。その鐘が鳴るとお互に新年を祝ふ。一體私の居つた所は場末で賣笑婦など澤山居ります。尤も賣笑婦と言つても晝間など會つた所で何處かの女中かと思はれる位ですが、日本の水夫さんなどでもかう云ふ者には怖がつてよう近寄らん樣です。怖がると云ふより餘り下等で行かない。そこには日本人など一人も居りません。併し支那人は流石に偉いです。さう云ふ所で洗濯屋や雜貨商をやつて居ります。領事さんに會つた時、何處に宿を取つたかと言はれるので話をしますと、貴方さう云ふ所は危いと言はれましたが、汚い帽子をかむつて歩いて居ると支那人だかイタリー人だか分りません。ギリシヤ人の村もあればマルタの奴も居る。丸で植民地見た樣な所でさう大して危險ではありません。併し十二時頃になると時々ピストルの音が聞えたりすることもありますが、さう云ふことは自分に關係ありませんから何んとも思ひません。カフェに大きい鏡があつてそれが破れて居る。どうしたのかと聞いて見ると、この間こゝで喧嘩があつてピストルを打つてその丸が當つたんだと平氣で話をして居りました。私はフランス語が書けると云ふのでその店の讓渡書を書かされ、酒のことでいざこざが起つたこともありますが、その時店の引出を私が開けて見るとピストルが入つて居りましたが、十二月三十一日に亭主はそのピストルを持出して海岸へ行く。海岸にはその邊の連中が一杯になつて居る。で、十二時うつと同時に向ふの山の寺の鐘が一齊に鳴り出す。するとあゝ云ふことはフランス政府で許して居るのかどうか知りませんが、パン〳〵と實彈を空に向けて發射する、するとシャンパンをぶつかける。三本位かける。それから朝まで飲むんですが髮だらけの顏を互に嘗め合ふ。私も嘗められましたが、朝まで歌を唱つて

夜明しをするが流石にイタリー人です。ボロ〳〵のルンペンですが一度樂器を執ると調子を合せてイタリー風の歌をうたつてよく踊ります。音樂の國は違つたものです。

話は違ひますがカフェなどにも歌うたひの乞食が來ますが非常に大事にします。音樂をあんなに大切にする國はありません。イタリーのオペラを聞いてフランスのオペラを聞くと實にたよりない。況して英國のものなど藝術の樣な氣も致しません。流石にイタリー人の音樂は流練されて居ります。その時例の肥つたお神さんフローレンスの踊りを一緒に踊らうと言ふ。私は出來ないと斷ると、教へてやるとアイヌ踊の樣な極く原始的なフローレンス特有の踊りを教へて呉れましたが、これは自分の記憶に何時までも殘つて居ります。私はこれがファシズムの踊かと聞くと、さう云ふ譯ではないがと笑つて居りました。

ファシジムの話になりますが日本でファッショ〳〵と申しますが、ムッソリーニは別にファシズムを押付けて居る譯ではない。ファシズムが帝國主義と同じものでないと云ふことはよく分りますが、十二月に面白いことがありました。それは新聞でファシズム本部では宣言を發表し、今のイタリー皇帝が崩御遊された後はリパブリックになると主張したと書いてあると、仲仕達は大騷をして喜んで居つた。考へて見るとイタリーと云ふ國はローマの昔以來さう云ふことは未だ一度もない。それが自分達が結束してアメリカの樣な民衆中心の國を作りたいと仲仕連が喜んで居る。それを見てもムッソリーニは最下級の人達に對して出來るだけ力瘤を入れ、そのお蔭でさう云ふ人々からも今日ムッソリーニが支持せられて居ると云ふことがよく解ると思ひます。

貧乏話がムッソリーニの話に脫線しましたが、今日は衣食住のお話をする積りでしたが食べることは大分話しましたので、今度は寢ると

と著ることですが、文化の違ひは寢臺を見ればよく分る。寢臺の造り方はフランス、イタリー、ドイツ、ロシヤ、イギリス皆違ひます。例へば枕一つ見ても、フランスでは下に長枕を置いてその上に更に四角の枕を置く。イタリーではこの上の物はありません、長枕だけです。ドイツは上の物だけになつて居ると云ふ風です。それから寢臺のシーツの敷方が大分違つて居ります。これはフランス流が一番よろしい。上のものが決して下に落ちない。上からシーツを丁度袋の樣に卷いて了ふ。ドイツは包むと云ふことは多少似て居りますが、苦茶々々になつて居るからよくずり落ちることがあります。ロシヤに行くと夜中に目を覺すと必らず上の物が下に落ちて居る。一流ホテルになるとさう云ふことはインターナショナルで同じですが、家庭などではさう云ふ所が大變違つて居る。矢張りフランス人は文化人です。豪所のストーブを見ても今日はガスの時代になつて來ましたが、古い石炭用のものはフランスのはよく出來て居ります。隨分大きい物ですが石炭は少しで焰がよく廻り、一日に二回程石炭を入れると一日湯など沸いて居つて非常に經濟的に出來て居ります。料理屋など今でもさう云ふストーブを使つて居る。又豪所など非常に能率的に出來て居りますが、十九世紀までにさう云ふ日常生活はよく發達したのであります。

食物でも先にも申しましたが朝非常に固い肉を使つて澤山のスープを造つて置く。田舍などに參りますと驚く程澤山の分量を造りますが、それを土豪にして色々煮物をしたりします。

詰り日本で朝味噌汁を造る樣な譯で、これをポートーフーと言ひますが、ポートーフーと云ふことは一方暮しと云ふ意味にも用ひられる位、このスープが日常生活上深い關係を持つ樣になつて居ります。

マルセイユの話を大分致しましたが、今度はパリーの話を少しして

見たいと思ひます。

パリーは二十區に分れて居りますが、第一區には有名な世界一の博物館ルーブルがありますが、一區から二十區まで渦の樣に區が廻つて居る。今計畫中の大パリーと云ふのは別ですが、昔の儘の城壁に圍まれたパリーが二十區に分れて居るのであります。而してセーヌ河がその眞中を流れその中に名高いノートルダム寺院のある島がある。これは英語のシティに當る所でその島をシテと言つて居りますが、區としては第三區になつて居ります。五區はセーヌ河の南岸に當りますが、此處には有名なソルボンヌ大學があり世界各國から學生が集つて居ります。普通羅甸街と言つて居ります。その隣の第六區、これはブルジョア地帶と言つて居りますが、今日皆樣がお考へになるブルジョアと云ふ意味とは違ふので、これは一九八一年あの革命を起したブルジョアで商人階級を指したものです。マルクスなどの言ふブルジョアとは違ひます。この邊で商人階級の革命軍が貴族を相手にして非常によく戰つたのでありますが、今人口は三十萬位あります。此の邊にはセーヌ河岸に名高い古本屋の店が並んで居ります。この區にはダントン通りとかチンゼルマン通りとか云ふ名の通りがありますが、ルネサンス頃の地圖で見るとこの邊がパリーで一番古い市です。ゴブラン織の古い地圖で見ると今サクレクールと云ふ寺のある十八通あたりは郊外になつて居ります。昔は堀を廻らしてあつたのですが、それを埋めて環狀道路を築いたので、その外部が郊外になつて居りました。モンマルトルの通りを外の方へ出て行くとフオーブール・モンマルトルと書いてある。郊外と云ふ意味ですが、それが街の眞中で意味が解りませんでしたが、これなど昔の名殘であります。前に申した羅甸街などバルザックの小說などにもよく出て來ます。細い通りがその附近に澤山ありますが、十六世紀頃の地圖には未ださう云ふものは載つて居りません。今凱旋門のある所など皆郊外で、前に言つたチンゼルマン通りが最終の通りになつて居りました。それでこの通りの先に行くと十九世紀の中頃に出來た貴族の住宅がありますが、バルザックなどの時代には既にそこは銀座通と云つた樣な通りになつて居りましたが、さう云ふ所で革命が發生した譯であります。

今醫科大學のある所にダントンの銅像が立つて居りますが、その前の方に細い鐵の門があり、その門を入つた裏通りサンタンドレ・デザアルへぬける面白い路地がある。クール・デュ・コメルスと言つて居ります。この邊が昔ブルジョアの中心地帶であり、繪かきが畫などよく描いて居ります。そこにローアンと云ふ宿屋があり、私も暫く居つたことがあります。

私は新聞で見たのですが、パリーでは一流の新聞がパリー二十區の遊覽記の樣なものを書かして居る。例へば東京で讀賣新聞なら讀賣新聞が三田村鳶魚氏に賴んで昔の江戸の歷史を書かせると云つた譯ですが、十六頁位の新聞が殆ど一頁を費して連載して居る。僕もそれで自分の居る六區の歷史を知つた樣な次第ですが、名高いギロチンなどもそこで造られた。今アメリカの料理屋になつて居りますが、ギヨタンと云ふお醫者さんがそこに住んで居つて例の斷頭機を發明し、毎日羊を試驗臺にして首を切つて居つたと書いてありましたが、それから急に氣持が惡くなつたことがありました。裏通りに出ると矢張市場の樣な食物店が並んで居つてチーズの切端なども賣つて居ります。私はその時分一人でしたが、さう云ふ所に買出しに行つたパンを嚙り魚など食べて居りましたが、五時になると一フラン出すとスープを一リットル呉れますが、一人ですから半分位しか要りませんから五十文でよ

い。それでパンを食べて居れば榮養も相當あるし頗る經濟的です。併しフランス人はさう云ふ貧弱な生活は決して致しません。

次は衣の方ですが家內はその方をやつて居りましたが私は餘り氣を付けませんでしたが、パリーと云ふ所は女の我儘は出來るだけよく聞く樣になつて居る。フランス人は男は權力を持ち女は社會を持つと云ふ言葉がありますが、成程女は社會を持つて居る所だと思ひました。デパートメントストアなどを見てもさう思はれます。此頃大阪の十合の入口などを見るとパリーの大百貨店その儘です。デパートは殆ど女のお客で男など氣まりが惡い程です。僕等が行つても何に使ふのか解らん樣な品物を一ぱい賣つて居る。女はさう云ふ材料を買つて來て自分で帽子など作つて居ります。裁縫など向ふでは一つの藝術になつて居ります。それでさう云ふ人に着物を縫つて貰ふと非常に高くつく、手間賃を繪描程取られるから何千フランにもなる。それで女は裂を買つて來てその年の流行に從つて自分で意匠を加へ手製でやる。さうすると三千フラン五千フランもかゝる物が十分の一位で出來る。久米正雄君の細君が來た時、初は着物を買つて居りましたが、そんな高い物を買つてと僕の家內に攻擊され、それから每日家內の所へ裁縫を習ひに來て居りましたが、パリーの女は旅行者などの十分の一位の値で立派な流行衣裳を作つて居ります。又パリーの店では女が裂を何メートルか切つて貰つて買つて歸り氣に入らんとそれを返しに行くが、店では默つて受取ると云ふ程女の御機嫌を取つて居ります。

パリーのデパートは日本の樣に色々な催をして人を寄せると云ふ樣なことは絕對にありません。たゞクリスマスの時は子供達の喜ぶ樣に大きい人形などを飾つたりしますがその外には催などしない。日本人はデパートへ氣晴しに行くのですが、向ふでは公園に色々設備があるからデパートは本當に實用だけです。それでデパートは地味でどつちかと言へば汚い。併し品物はウンとあります。女などその場で中々買ひません。十分吟味してから最後に氣に入つた物を買ふと云ふ風です。直ぐに決定しませんが批判力には富んで居ります。これには感心致しました。

一體にフランス人は落付いて居る樣です。私の居つたホテルの隣に寢臺のバネを造る職人が居りました。鋼（アシガネ）の上等のバネを造るのですが、三代も四代も前から續いてそればかりやつて居る。仕事を見て居ると、人と話をして居ることは見たことがない程朝から晩までカン〳〵一生懸命每日やつて居る。それは一つはフランス人は個人主義が非常に發達して居る爲でもありますが、自分でやらうと決めたことは何が起らうが平氣でコツ〳〵やつて居る。物を決めるには時間がかゝりますが一旦決めたら一生懸命やつて居ります。實際生活はドイツ人などとは反對です。私はパリーからベルリンに行く途中或るドイツ人と親しくなり色々話しましたが、その男は、フランス人は天才的だし、ドイツ人は應用的な人種だ。イギリス人は實際的だと評して居りましたが、實際フランス人はどこか天才的な所があります。又フランス人は百姓に適して居つて商人には不適當です。その點になるとドイツ人は商人に適して居る。日本人はフランス人を誤解して居ります。パリーの華かな方面を見て、地味なパリーの眞中で一生バネをコツ〳〵造つて居ると云ふ樣なフランス人を想像致しませんが實際はさう云ふ所です。私は十何年前に初てパリーに行つた時、停車場を見てこんな汚いものかと思ひました。併しよく味ふとパリーは實に美しい。チイブールと云ふドイツ人は三十年もパリーに住つて、パリーと別れるに忍びないからこの本を書くと言つて三百頁程の本を書いて居りますが、パ

リーはグリザイユと云つて浮彫々刻のやうな一種の鼠色になつてゐますが、丁度京都の建物が紅殼色で塗られて居る樣なものですが、あらゆる色がこの鼠色に溶け込んで、それを靜つと見て居ると實に美しい色が現はれて來る樣な氣がする。パリーは長く居れば居る程その美さが見えて來ると言つて居りますが、並木などもヒヨロ〳〵した物でなく何百年も經つたかと思はれるものが多く、そのマロニエの並木の兩側にグリザイユ色の建物が並んで居るのを見ると東京の樣に綺麗な所はないが、深味のある美さで滿ち〳〵て居る樣に感じられます、ルイ十六世が首を切られたコンコルドの廣場の角にアメリカ大使館がありますが、初めニューヨークにある樣な建物を造らうとしたが市當局から斷られて古くさいパリー式の建物にさせられましたが、それ程市の美觀については、やかましく言つて居ります。これはパリーは非常に古い時代からあつて、そこへ代々積上げて今日の美しいパリーが出來上つて居るのでありますから、それを壞されることを非常に恐れて居る譯です。それでパリーは各國人の氣持を非常に引付ける。又パリーにあるものはイタリーにもあると云ふ點に於てその國の人の心を引きます。例へばパリーのパンテオン、これは今招魂社の樣なものになつて居りますが、そのパンテオンの造り方はローマにあるパンテオンと同樣です。ローマのはギリシヤ建築で、ギリシヤの社殿ですから祀つてあるのは昔はマリヤさんでなく、ダイヤナの神を祀つた社ですが、ギリシヤからローマ、ローマからフランスと系統を引いて居る。丁度日本の法隆寺が支那建築の影響を受けて出來て居る樣なものです。さう云ふ譯でパリーに行けば何處かに自分の國の昔の面影を偲ぶことが出來ると云ふ樣な點からも他國の人を引付けて居る譯でありますが、その他にパリーが人を引付ける原因について色々珍しい說を立てる人があります。例へばラコフスキーと云ふ陸軍病院の技師をして居る人で宇宙線の研究家がありますが、その人の說などは頗る面白いものです。それに據ると地殼からは一種のレーを放射して居るが、人類は無意識の間にその惡い放射線を避けて居る。それでさう云ふレーの少い所には自然人が集るのであるが、パリーはさう云ふ有害な放射線が一番少いから自然多くの人を引付けるのだと申して居りますが、それは兎に角パリーは東京などに比べて立派ではないかも知れませんが、一種インタナショナル的な安易さを人に與へることは事實であります。又パリーは人が住みよい樣に色々設備が出來て居る。セーヌ河のコンクリートの堤防一つ見ても、さう云ふ所はめつたに遊覽船などの來る所でないのですが、それでもちやんと船が着ける樣に梯子が所々造つてあると云ふ風に遊覽設備は完備して居ります。さう云ふ點から見るとパリーは實に住みよい所ですが、一番住みよいのはルンペンです。フランスの新聞の漫畫の主人公は何時もルンペンです。ルンペンと云ふのはドイツ語で、フランスではクロシヤールと申しますが、クロシヤール先生新聞では何時も時事を論じて居ります。セーヌ河の岸には何時も太公望が呑氣相に糸を垂れて居りますが、その後のベンチにはルンペン先生盛んに葡萄酒を飲んで漫談をやつて居る。パリーの葡萄酒は安くて中々甘いものですが、それにソーシツソン・ダルルと云ふ鰹節の樣な固いアルレジアンのアルヽで出來る腸詰を削つて肴にして呑氣にやつて居ります。雨が降ると橋の下に入つて相變らず飲んで居る。その橋の下は丁度フワウストの初の場面でも見る樣でパリーのルンペンは羨しい樣に思ひます。

大分時間が經つた樣ですから今日はこれ位で御免を蒙ります。

（拍手）

昭和十二年三月十日印刷
昭和十二年三月十五日發行

非賣品

編輯兼發行者　京都市上京區紫竹ノ本町五十一番地　後藤正治

印刷所　大阪市西區土佐堀通四丁目　三有社

印刷者　大阪市天王寺區細工谷町一〇九番地　荒木秀一

發行所　京都市中京區高倉通錦小路上ル五六五　京都經濟會

705
83